



2021年5月11日 キリスト教センター通信 リレーメッセージ 第35号

「世界にひとつだけの花」

神戸国際大学オルガニスト 伊藤 純子

金子みすゞの詩に「みんな違ってみんないい」という言葉があります。これは「好き勝手のワガママ放題」を勧めているものではなく「みんな違ってみんな大切」という意味だと思います。

「自分とは違う誰か」をそのまま認めることで生まれる気付きは非常に大きく、視野をグッと広げてくれるものです。その先には新しい世界が広がっています。

一方で「皆が自分と同じになるべき」との思いは、自分と違う人に対しての批判、拒絶、攻撃を生みます。また「自分は皆と同じになるべき」との思いは、自分をムリヤリ周りに合わせることになります。

つまり「他人が他人らしく居られる場」こそが「自分が自分らしく居られる場」であり、「自分と違うものを認める」ことは同時に「自分を認める」ことになります。

教会で5月23日に迎える聖霊降臨節のメッセージとしてローマ教皇は「多様性による一致」を挙げていますが、これはごく身近な話です。

「もともと特別な **only one**～♪」まずは隣に居る人、そしてあなた自身を、視点を変えて眺めてみませんか？ 視点を変えることは難しいかも知れませんが、必要なことはただひとつ、耳を澄ますことです！



一口メモ 「パイプオルガン」

ひとつとして同じ音色を出すパイプはありません。音色の個性が豊かで、なおかつ、他の音色と混ぜると「1+1=2」以上の効果があり、全く新しい音色が誕生します。

これが本学のパイプオルガンの魅力のひとつです！



音色はこちら →

- 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り -

※ みなさんもお時間のあるときにお祈り下さい

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。

どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によってお捧げいたします。 アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒やしてください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。

主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離なれて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支えください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。

この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。 アーメン